

第141回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成20年7月10日(木) 11:00~12:30

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 8人
出席委員数 7人

出席委員の氏名 森内 律子
青木 敬信
片岡 真理
片山 貴之
古磯 勝子
島田 恭子
早川 富美子

欠席委員の氏名 須賀 英之

放送事業者側出席者 高松 征雄 代表取締役社長
原田 宏 取締役放送部長
森 新一 常勤監査役
佐藤 望 放送部長代理
佐藤 由紀子 放送部

4 議題 番組の試聴及び意見交換

5 議題の概要 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回(9月)の開催日程について

6 議事の内容

(1) 番組の試聴及び意見交換

毎週日曜日18:00~18:30に放送している自社制作の音楽番組
『HARMAN presents BERRY POP CLUB』についての
試聴と意見交換をおこなった。

事業者側：この番組は開局以来の長寿番組であり、この4月にリニューアルした。

以前は、東京のスタジオで収録しアーティストの語りと音楽を聴かせるものだったが、
リニューアル後は、レディオベリーのオリジナルカラーを出そうという意図もあり、
アーティストを弊社のスタジオに招き、レディオベリーのアナウンサーがインタビューして
楽曲をかける、というスタイルに変えた。

6月前半のゲストアーティストは、黒人演歌歌手のジェロさん。インタビューは佐藤望
アナウンサーが担当した。

それでは、6月8日と15日の2週にわたって放送した番組の一部をお聞き下さい。

委員 : テレビのコマーシャルなどから彼の存在を知り、今までは「こういう人がいるんだな」という認識しかなかった。特別に歌を聞くこともなく詳しい知識もなかったが、番組を聞いてみると、彼の年齢は26歳で日本に来てまだ5年ということだが、こんなに気持ちが落ち着いた人がいるのだ、と驚いている。文化も違う中で育ち、おばあちゃんが日本人だったという家庭環境だけで、こんなに素朴で精神的にも人間味あふれる人が育つものなのか。家庭環境の良さと彼を取り巻く社会を想像しながら聞かせていただいた。

ただ、1週分の放送では、ジェロさんの話ぶりがボソボソときごちなかったように思う。それは、彼の素朴さや温かさを感じさせたが、バックの音が大きすぎて聞き取りにくかった。ジェロさんの良さを引き出すには、もう少しBGMを押さえた方が良かったのではないか。また、ジェロさんの言葉遣いにも感心した。インタビューは後半部分から慣れてきたようで、ジェロさんの良い所を引き出していた。26歳の素朴な青年がこのまま成長していくことを期待したい。

委員 : 確かにジェロさんの温かい人柄が伝わるインタビューでしたね。

委員 : ジェロさんの日本語の上手さに感心した。訛りすらなく、日本語の上手な外国人というより日本人と寸分変わらない日本語だった。彼は黒人演歌歌手ということで、何か“ mismatch感”を売り物にしたテレビ向きな人”と思っていた。それだけに、ラジオでどう取り扱うのか難しさがあったと思う。ゆえに、ラジオで聞いていると、普通の日本人がしゃべっていると思われると思うだろう。そういう面では説明の難しいゲストだったかもしれない。付け加えると、インタビュアーの佐藤さんの曲紹介はなかなか良かった。

委員 : こういったインタビューは最初から台本をつくるものなのか？

事業者側 : 今回のように、初対面のゲストにインタビューする場合は、打ち合わせ勝負。ジェロさんは今大人気で多忙なため、スタジオに来たときから疲れがあったように見えた。同じことを色んなところで聞かれているということもありテンションも低かった。しかし、収録が始まると、佐藤アナウンサーのリクエストに答えて演歌のさわりの部分を歌ってくれたりもした。結果的に、今回は、台本半分アドリブ半分になった。

委員 : ジェロさんがどういう人でどんな曲を歌っているかなどは、インタビュアーが紹介してくれたので興味を持って聞くことが出来た。彼は演歌を選曲しているから演歌歌手ということになっているが、小節を利かせた本格演歌ではなく、バックが16ビートやJポップになっている。そのため、今の演歌というか、若い人たちにも受け入れられるのだろう。そういう意味で、新しい演歌のスタイルを彼や周りのスタッフが作っているといえる。先ほども話が出たが、佐藤さんの『海雪』の曲紹介はしつこくなく、サラッとして良かった。

委員 : 彼の話聞いて、「言葉から人間は作られるのかな」と思った。最近テレビに出る人はうるさい人ばかりだが、演歌歌手の方たちは舞台でも丁寧にしゃべっている。それが、外国人の演歌歌手にも良い影響をもたらせ、彼が落ち着いて見えるのかもしれない。日本の若者にもこういう人が増えてくれると良いのだが。

委員 : 彼がインタビューの最後に言っていた「この歌の詩が好きだ」という言葉が、私も印象的だった。片岡委員が言っていたように、「言葉から人間が、その思考が作られていく」というのはあるのかなと思う。彼のきちんとした丁寧なしゃべり方は、生まれ育った生活の中で身につけたものなのだろう。

例えば、演歌につきものの着物について振られてもちっともブレがなく、「着物を着るのは好きじゃない」とキッパリ言っていた。彼のスタイルや生き方もスタッフに振り付けられたものではなく、彼自身の生き方から来ている、ということがインタビューからも分かる。彼の生き立ちについてもっと知りたくなった。彼の丁寧な話しぶりは、この時代に聞くと本当に気持ちいい。だからこそ、周りが彼を潰さないで欲しいと願う。日本のこういう世界は上がるのも早いけど落とすのも早いので。

委員：このインタビューを聞き、彼の日本人のおばあさんだけではなく、すべての家庭環境についてさらに知りたくなった。聞き手の力量が試される番組といえるのではないか。

事業者側：確かに、インタビューの難しさを改めて感じることもある。

委員：ジェロさんについてはテレビで興味深く見ていたので、このインタビューも人柄が出ているなあ、と感じ楽しく聞き入ってしまった。先ほども話が出たが、BGMが大きく感じられたのは意図的だったのか？

事業者側：意図的に大きくしたわけではありません。ただ、ボーカル入りの演歌をBGMにすると、どうしてもそちらに耳がいかってしまうのかもしれない。今回はプロモーションということで、BGMは全て歌の入った曲を使ったが今後は考えなくてはならない。実情を言えば、編集はヘッドフォンで個人がすべて調整しているため音のバランスが難しい。昔はミキサーがいて職人的に調整していたのだが。

委員：皆さんの意見にもあったように、全体的には良い番組に仕上がっていたと思う。このようなインタビュー番組は、どれだけ相手の人柄を引き出せるのかが勝負だが、そういう面では成功したのではないか。

(2) その他

森 新一監査役が新任したことについて報告した。

(3) 次回(9月)の開催日程について

次回の開催を9月11日(木)にすることについて全員の了解を得た。

7 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

8 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

a) 放送：7月27日(日)午後7時55分の「レディオベリー インフォメーション」内。

b) 書面：本社事務所に備え置き。

c) インターネット：エフエム栃木ホームページ内。

9 その他の参考事項

なし